

# 第3節

## 仙台沿岸エリア

仙台市・塩竈市・名取市・多賀城市・岩沼市・亶理町・山元町・松島町・七ヶ浜町・利府町

暮らしの基盤が整い、各地で防災・伝承の在り方を探る

仙台沿岸エリアは、名取川、阿武隈川の流域に堆積した土砂により発達した東北地方最大の仙台平野を有しています。このエリアでは、仙台市を中心に商業や工業等の産業が集積しています。津波によって、エリア内の浸水範囲は186.5km<sup>2</sup>に及び、仙台市内陸部も含む全半壊の住宅被害が市町村別では県内最大と

なったほか、農地冠水や農業用機械・施設の流出による被害も甚大でした。

災害公営住宅整備事業については、平成30年に名取市で全ての災害公営住宅が完成し、仙台沿岸エリアにおける応急仮設住宅の供与については、令和2年度までに終了しました。

福祉については亶理町で令和2年、役場新庁

舎開庁に合わせ「保健福祉センター」が開設され、町民の健康増進はもちろん災害時の医療救護活動の拠点としても活用されています。

観光においては、亶理町B&G海洋センター(艇庫)が復旧したほか、平成31年4月に名取市の「かわまちてらす閣上」がオープンしました。

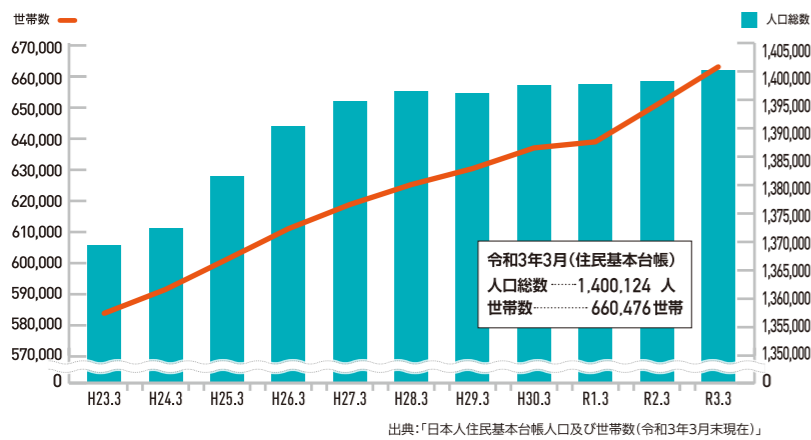
令和元年に名取市関上地区まちびらきが行われ、土地区画整理事業については、令和2年度に事業が完了しました。また、岩沼市、七ヶ浜町で区画整理事業が令和2年に完了しました。

教育に関しては、被災した名取市関上小学校と中学校が統合、移転新築し、平成30年に県内初の9年制義務教育校「関上小中学校」として開校しました。

防災においては、震災の伝承と防災機能強化に力が入られ、平成30年に塩竈市津波防災センターが開所したほか、各市町村舎の防災機能強化が図られました。令和元年には仙台市で「世界防災フォーラム/防災タボス会議@仙台2019」が開催されました。

伝承の取組としては、名取市震災復興伝承館、山元町震災遺構中浜小学校などが公開されました。

### ■仙台沿岸エリアの人口・世帯数の推移



### 被災の状況

#### ●人的被害 (令和3年3月31日現在)

3,396人 死者	県全体の約32%	89人 行方不明者	県全体の約7%
--------------	----------	--------------	---------

#### ●住宅被害 (令和3年3月31日現在)

41,546戸 全壊	県全体の約50%	124,923戸 半壊	県全体の約81%
---------------	----------	----------------	----------

#### ●避難状況 (県全体ピーク時)

515か所 避難所	県全体の約39% (平成23年3月15日 午前11時)	145,865人 避難者	県全体の約45% (平成23年3月14日 午後6時)
--------------	--------------------------------	-----------------	-------------------------------

#### ●応急仮設住宅入居者 (令和2年12月31日現在)

0人 プレハブ住宅	県全体の0%	0人 民間賃貸借上住宅	県全体の0%
--------------	--------	----------------	--------

※応急仮設住宅の供与は終了しました。



写真:工場団地を襲う津波(多賀城市)



写真:自衛隊による捜索活動(七ヶ浜町)

### 浸水域図

#### 津波の痕跡高

地域名	最大浸水深	最大遡上高	地域名	最大浸水深	最大遡上高
松島町	2.8m	-m	仙台市若林区	11.9m	-m
利府町	6.3m	-m	仙台市太白区	2.1m	-m
塩竈市	4.8m	-m	名取市	11.8m	-m
七ヶ浜町	11.6m	-m	岩沼市	10.5m	-m
多賀城市	5.5m	-m	亶理町	8.1m	-m
仙台市宮城野区	13.9m	-m	山元町	14.6m	10.4m

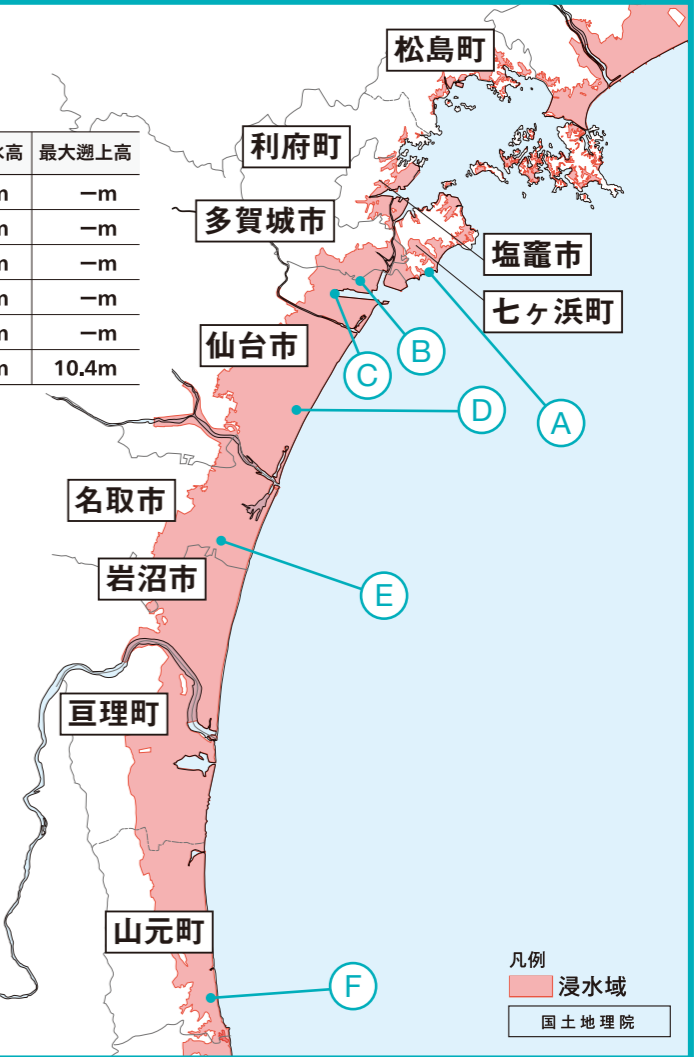
出典:東日本大震災一宮城県発災後一年間の災害対応の記録とその検証一(宮城県)  
※平野部については内陸部ほど津波高が低くなり浸水深が最も高くなることから、遡上高については記載していない。

#### 被災市町の基本データ及び被災関係データ

出典:総務省統計局刊行「統計でみる市区町村のすがた2015」

地域名	人口総数 (人) <sup>※3</sup>	世帯数 (世帯) <sup>※3</sup>	総面積 (北方地域及び竹島を除く)(km <sup>2</sup> )	可住地面積 (km <sup>2</sup> )	浸水域面積 (km <sup>2</sup> ) <sup>※1</sup>	推定浸水域にかかる人口 (人) <sup>※2</sup>	推定浸水域にかかる世帯数 (世帯) <sup>※2</sup>
仙台市	1,045,986	465,260	784	339		29,962	10,385
青葉区	291,436	144,125	302	95			
宮城野区	190,473	85,925	58	54	20	17,375	6,551
若林区	132,306	58,914	48	46	29	9,386	2,698
太白区	220,588	91,526	228	71	3	3,201	1,136
泉区	211,183	84,770	147	72			
塩竈市	56,490	20,396	18	15	6	18,718	6,973
名取市	73,134	25,124	100	71	27	12,155	3,974
多賀城市	63,060	24,079	20	19	6	17,144	6,648
岩沼市	44,187	15,519	61	47	29	8,051	2,337
亶理町	34,845	10,903	73	61	35	14,080	4,196
山元町	16,704	5,235	64	43	24	8,990	2,913
松島町	15,085	5,137	54	26	2	4,053	1,477
七ヶ浜町	20,416	6,415	13	11	5	9,149	2,751
利府町	33,994	10,818	45	20	0.5	542	192

※1 国土地理院:平成23年4月18日公表 ※2 総務省統計局:平成23年4月25日公表  
※3 総務省統計局:平成22年10月1日(国税調査結果)



### 被災の状況

#### ① 七ヶ浜町苧蒲田浜地区



苧蒲田浜長砂付近。高台にある家は原型を留めているのに対し、海に面した低地にある一帯は、ほとんどの建物が流出しました。

#### ② 多賀城市町前付近



渋滞で列をなす車が波にのまれた国道45号。黒煙を上げる仙台港の石油コンビナートの火災は、震災4日目ようやく鎮火しました。

#### ③ 仙台市宮城野区中野地区



津波で被災した中野地区。石油コンビナートや工場などの工業施設に甚大な被害が発生しました。

#### ④ 仙台市若林区荒浜地区



津波が襲来した荒浜地区。津波により孤立した荒浜小学校では、児童、教職員、地域住民ら320人が屋上に避難しました。

#### ⑤ 名取市 仙台空港付近



海から約1kmの仙台空港には大量の海水が流れ込み、滑走路が冠水。ターミナルビルの中に1千人以上が取り残されました。

#### ⑥ 山元町坂元地区



坂元地区では津波が家々をなぎ倒しながら、国道6号を500m山側へ到達。JR坂元駅も駅舎が跡形もなく流されました。

取組

01

## 環境・生活・衛生・廃棄物

災害公営住宅整備事業、集団移転を終え防災と環境改善の両立を目指すフェーズへ

## 発展期

被災者が新しい住宅を確保するまでの間、仙台沿岸エリアでは生活拠点となる応急仮設住宅(プレハブ住宅)5,973戸が整備されましたが、令和3年3月までに全ての団地が解体完了となりました。

災害公営住宅整備事業は、名取市で平成30年12月に全ての災害公営住宅が完成し、記念の式典及び、鍵の引渡式が行われました。これで、閉上地区復興公営住宅463戸、下増田地区復興公営住宅92戸、高柳地区復興公営住宅100戸、3地区合計で655戸全てが完成しました。

仙台市では、沿岸部における防災集団移転跡地の有効活用を目指し、民間の自由な発想を活かしたプロジェクトがスタートしました。また、市民・NPO・企業等が協力し海岸防災林等のみどりの再生を図る「ふるさとの杜再生プロジェクト」は、令和3年3月、グリーンインフラに関する優れた取組事例を表彰する「第1回グリーンインフラ大

賞」において防災・減災部門の国土交通大臣賞を受賞しました。新浜地区では、ピオトープや冬水田んぼ等、野生の動植物が生態系を保って生息できる環境づくりが進められています。

亘理町では、クリーンエネルギー推進事業が進められ、平成31年4月には亘理太陽光発電所が整備されました。町はこの地域を「産業誘致・再生ゾーン」に指定し、太陽光パネルおよそ30万枚が設置され、出力は49.3メガワット、全国有数の太陽光発電所として、地域活性化、雇用促進、町の復興への貢献が期待されています。

置や各地区での移動サロンを開き、コミュニティ活動支援や見守り活動を継続しています。

亘理町では、令和2年1月6日に開庁した亘理町役場新庁舎の東側に、健康増進、子育て支援、介護予防の3つの機能を併せ持つ健康づくりの活動拠点となる「保健福祉センター」が開設されました。がん検診、特定健診などの健康診査や、妊産婦や乳幼児の健診と相談等の実施、そして、脳活性化教育や認知症カフェ、運動サークル等の介護予防事業を行っています。災害時には医療救護活動の拠点としても大きな役割が期待されています。

## 発展期

各市町村で、被災者のケアに対する取組が行われています。平成23年12月より被災者の心のケアを担っている「みやぎ心のケアセンター」は、相談数の高止まりが続いていることから、平成30年に震災10年にあたる令和2年以降も事業継続することを決定し、専門家によるメンタルヘルス支援を行っています。

七ヶ浜町では、災害公営住宅で暮らす被災者を対象としたNPOによる食事交流会等のコミュニティ形成支援等、住民の心の復興に寄与する取組を支援しました。

岩沼市では、被災者の見守り・総合相談窓口として、岩沼市スマイルサポートセンターを岩沼市総合福祉センター内に開設し、防災集団移転地や災害公営住宅のコミュニティ形成支援事業、交流・生きがいつくり事業などの被災者支援を継続しています。

名取市では、復興災害住宅への常設サロンの設

取組

03

## 経済・商工・観光・雇用

改めて沿岸部の魅力発信に取組、復興と集客を実現する経済・観光の発展へ

## 発展期

震災で観光の回復が遅れている沿岸部で、地域の交流人口拡大に貢献する、集客力のある施設整備が進められました。松島町では、松島水族館跡地利用施設整備事業として、宮城県松島離宮が令和2年10月17日にオープンし、松島湾地域における周遊観光の拠点として、地域の関心や期待が高まっています。JR仙石線松島海岸駅のバリアフリー化を推進し、令和元年度に工事着手し、令和3年11月に新駅舎で駅運営を開始予定です。その後、仮駅舎解体及びホームへのエレベーター整備を経て、令和4年2月には全ての工事が完成する予定です。高齢者や障害のある方はもちろん、観光客にもやさしい駅に生まれ変わります。

塩竈市では、塩竈市魚市場の2階に、「おさかなミュージアムseri-miru」が平成30年3月24日に開館しました。塩釜港に水揚げされる魚について学べる展示のほか、市場のセリを見学できます。

七ヶ浜町では、「青空市」「ポッケと収穫祭」を前身とし、七ヶ浜町の農業、漁業、商工業を盛り上げようという

イベント「七ヶ浜町産業まつり」が平成30年11月11日に花洲浜多目的広場で開催されました。同日には、七ヶ浜町の魅力を多角的に紹介する観光施設「七ヶ浜町観光交流センター」の開所式も行われました。

多賀城市では、防災拠点機能と産業振興機能を併せ持つ工業団地、「さんみらい多賀城・復興団地」の整備が進められ、令和元年3月28日に造成が完了しました。およそ15万5千㎡の敷地で12社(令和3年6月現在)が操業する予定です。令和2年4月1日には、災害対策備蓄品を配備し、災害時に支援物資の荷捌き場となる多目的イベントスペース「さんみらい多賀城イベントプラザ(STEP)」もオープンしました。

名取市の閉上地区には、震災後すぐに再開した「ゆりあげ港朝市」、堤防上の商店街「かわまちてらす閉上」、東日本唯一の宿泊付き自転車施設「名取サイクルスポーツセンター」など、魅力的な観光スポットが立ち並び、多くの観光客が訪れています。

亘理町では、プレジャーボートの係留施設、荒浜漁港フィッシャリーナ施設の復旧整備が進められ、平成30年4月1日に再開しました。管理棟と3基の浮桟橋(131m)が復旧し、船舶係留可能数は100隻から52隻に縮小した

ものの、新たに電気供給と給水を行うパワーポストを整備し施設の充実が図られました。また、「亘理町B&G海洋センター(艇庫)」は平成30年5月に復旧し、太平洋岸に位置する汽水湖「鳥の海」を活動水面に、季節限定でカヌーやヨット、町内の小学生を対象とした水辺の安全教室などを実施してきました。令和元年4月に運営を町から業務委託に切り替え、SUP、海釣り等のメニューを新たに追加したほか、自転車レンタル、ドッグランが併設され、通年利用できる施設として生まれ変わりました。

仙台空港は、名取・岩沼両市の空港周辺地域住民と丁寧な意見交換を重ね、地元同意を得て、令和3年2月に運用時間24時間化に関する覚書締結式が開催されました。仙台空港は延長時間の運航計画の策定に着手し、国土交通省東京航空局の認可を経て、24時間化が実現する予定です。



写真:左/かわまちてらす閉上(名取市) 右/名取サイクルスポーツセンター(名取市)

取組

04

## 農業・林業・水産業

かさ上げや農地再編が完了、効率的かつ安全な生産基盤を整備

## 発展期

農業分野においては、農地の再編や施設整備が進められました。松島町の手樽地区では、ほ場や用排水施設の整備として、農山漁村地域復興基盤総合整備事業が実施され、令和2年度に整備が完了しました。

名取市では、農業再生を目指して684.8haの大区画ほ場整備が行われ、令和3年度に工事が完了しました。岩沼市では、低コストで効率的な農業経営を実現するため、農地の集積や効率化を図り、ほ場整備事業により大区画化が進められたことから、機械化や省電力化技術が進められ、集落営農法人化が進みました。

亘理町では、農業再生を目指して約1,200万㎡の大区画ほ場整備が行われ、令和2年度に完了しました。

山元町では、被災した三つの農業関連施設である農産物直売所「やまもと夢いちごの郷」、田園空間博物館総合案内所「笠野学堂」、田園空間博物館

サテライト「磯恩賜郷倉」を集約した農水産物販売促進施設「やまもと夢いちごの郷」の整備が行われ、平成30年度に完了しました。

水産業では、被災した沿岸の漁業集落や漁港等の整備のために、手樽地区の古浦漁港、名籠漁港、銭神漁港の三つの漁港を中心とした漁業集落でかさ上げ工事が行われました。ポンプ施設等の安全設備も整備され、令和元年に事業を終了しました。

利府町では、浜田漁港と須賀漁港で漁業機能の回復を図る事業が進められました。防潮堤の整備が行われた浜田地区は平成30年に事業が終了し、須賀地区では津波の侵入を防ぐ水門が整備され、令和2年3月に終了したほか、漁業施設用地のかさ上げも行われ、あわせて漁港内の道路やポンプ施設も整備されました。

塩竈市では、塩竈市が事業主体となり、桂島地区ほか4地区について、集落道や避難路、水産関係用地の整備を実施したほか、災害復旧事業の進捗に合わせ、漁業施設用地のかさ上げを実施しました。また、桂島漁港、野々島漁港及び寒風沢漁港

において、漁業集落の地盤かさ上げや集落道路等の整備を実施しました。



写真:農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」(山元町)

取組

05

## 公共土木施設

土地区画整理事業や道路復旧が最終段階に、まちづくりと一体の道路整備が進む

## 発展期

高規格幹線道路等の整備について、地域経済を支える交通網の利便性向上が図られました。常磐自動車道は、山元IC～岩沼IC間の13.7km区間における4車線化が完成し、令和3年3月6日に供用を開始しました。仙台北部道路の4車線化については、国土交通省に対して知事要望を実施した結果、次年度に新たに4車線化に着手する候補箇所として選定されました。

多重防御の機能を有する道路として、主要地方道相馬亘理線の山寺区における4.7km区間が令和3年3月26日に供用開始となり、山元町坂元から亘理町吉田までの全事業区間(L=11.2km)が開通するなど、復興まちづくりと一体となった道路整備が着実に進みました。また、仙台市ではかさ上げ道路の整備として、主要地方道塩釜亘理線など沿岸部を縦断する総延長10.2kmの区間におよそ6mの土盛りが行われ、令和元年11月30日に開通しました。

避難道路の整備について、仙台市では、仙台市東部の区間を東西に結ぶ3本の避難道路(市道南浦生浄化センター1号線、県道荒浜原町線、主要地方道井土長町線)の整備が行わ

れました。さらに、住民が津波避難施設などへ円滑に避難できるよう避難経路も整備され、令和元年度に事業を終了しました。松島町では、高城地区と磯崎地区、高台に位置する松島運動公園、そして三陸自動車道を結ぶ避難道路の整備が進められ、令和3年7月に開通する予定です。

橋梁の耐震化において、老朽化に加え、震災で一部がひび割れるなど損傷していた松島大橋の架け替えが行われ、令和2年6月15日に完成しました。

塩竈市では、海岸通地区震災復興市街地再開発事業が推進され、JR本塩釜駅西側の国道などを含む1番、2番地区の再開発が行われました。マンション中心の住宅棟と駐車棟で構成される1番地区が令和2年3月に完成、鹽電神社の門前町の風情を取り入れた「直会(なほらい)横丁」をコンセプトとした商業エリアとなる2番地区は、1～3階建ての8棟の整備が予定されています。

土地区画整理事業において、七ヶ浜町では、4地区の被災市街地復興土地区画整理事業にて26万㎡に及び事業が行われ、令和2年10月に事業が終了しました。また、復興整備計画の一環として、長須賀多目的広場と代ヶ崎浜地区広場を整備。防災・減災はもちろん、交流人口の増加、住民のコミュニティ形成を目的として令和3年に完成しました。名取

市では、閉上地区被災市街地復興土地区画整理事業が進められ、津波被害を受けた閉上地区のうち、およそ30万㎡が海拔5mまでかさ上げされ、令和元年5月26日、閉上地区まちびらきが行われました。岩沼市では、仙台空港や岩沼臨空工業団地に接する矢野目西地区の土地区画整理事業が行われ、令和2年4月17日に完了しました。この地区は仙台空港のほか仙台東部道路や国道4号、主要地方道路である県道仙台空港線、県道塩釜亘理線が接道し、交通の利便性が非常に高く、物流・産業用地の拠点として期待されています。

多賀城市では、県道仙台塩釜線から城南地区までの南北977mと桜木地区の県道から多賀城高校まで、全長1,520mの緊急避難路・物流路として完成しました。津波浸水想定区域から内陸部への避難、救援活動、支援助物資の輸送、復興後の経済活動を支える物流の役割を担います。



写真:閉上地区まちびらき(名取市)

取組

06

## 教育

子どもたちが自然と郷土・防災を学べる質の高い教育環境構築を推進

## 発展期

震災で被災した名取市の小学校と中学校の再建は、宮城県初の9年制義務教育校として、名取市立閉上小中学校が平成30年4月に開校しました。震災前の閉上小学校と閉上中学校を統合して誕生した学校で、新校舎は旧中学校校舎からおおよそ600m内陸に建設されました。地域の防災拠点として防災教育が推進され、郷土学習「閉上学」の授業が行われるなど先進的な学びに取り組んでいます。

亘理町では、令和元年度と令和2年度に、みやぎ「行きたくなる学校づくり」推進事業として、亘理中学校区を県指定の推進地区に位置付け、意識調査による「児童生徒の声」を基に、授業改善や学校の取組の見直しを図り、児童生徒が行きたくなる学校づくりを推進しました。

山元町では、防災キャンプ推進事業として、山元町を含む3町で実行委員会を組織し、体験的なプログラムを通して地域の担い手としての青少

年や住民一人一人の地域防災力の習得、地域コミュニティの醸成を図りました。

野蒜地区から宮戸へ移転し、平成29年6月に先行して野外フィールドの供用が開始された「宮城県松島自然の家」は、本館(管理棟、研修棟、宿泊棟、浴室棟、体育館)の工事が完了し、令和3年3月に本館完成記念式典が開催されました。

岩沼市では津波被災により解体撤去した東保育所と東子育て支援センターが防災集団移転の玉浦西地区内に平成31年4月に開所しました。防災集団移転計画で掲げた「まちなかに子どもの声が響くような、元氣あふれる明るいまちづくり」を進めるため、玉浦西地区への移転再建を果たしました。



写真:名取市立閉上小中学校正門(名取市)

取組

07

## 防災・安全・安心

各地の防災拠点が相次いで開所。風化防止と次世代への継承を模索

## 発展期

仙台市では、令和元年11月9日～12日まで、東日本大震災の被災地が世界へ発信する防災関連の国際会議「世界防災フォーラム／防災ダボス会議@仙台2019」が開催されました。期間中、38の国と地域からおおよそ900人が参加し、50のセッション等が行われ、東日本大震災に関する知見の共有や、防災・減災に対する具体的な解決策が話し合われました。

多賀城市では、平成26年に公開されたデジタルデータベース「史多・多賀城 防災・減災アーカイブス たがじょう見聞録」を活用し、震災を未来に伝える取組が続けられています。災害時主体的に行動できる子どもたちを育成するため、宮城県多賀城高等学校と多賀城文化センターにおいて、「令和元年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会・東日本大震災メモリアルday2019」を開催しました。県内外の高校生計100名が2日間の研修を通して、防災・減災の基礎知識を身につけるとともに、同じ志を持つ仲間との交流を通して、地域に貢献する意識の醸成を図りました。2日間の研修を修了した県内高校生68名を「みやぎ防災ジュニアリーダー」に認定しました。

塩竈市では、平成30年7月、津波災害発生時には一次避難場所や浦戸地区の復旧支援の前線拠点として、また、市営汽船欠航時には離島住民の一次待機場所となり、平常時は震災記録の伝承と防災知識普及の役割・機能を持つ「塩竈市津波防災センター」がオープンしました。これにより、港町地区津波復興拠点整備事業は完了を迎えました。

七ヶ浜町では、都市公園整備事業によって町内7か所に津波防災緑地が整備され、平成31年3月に事業を終了しました。津波防災緑地は防備堤と連携して津波の威力を弱め、漂流物を捕足する役

割を果たします。

名取市では、令和2年5月30日に、震災の記憶や教訓を後世に伝える施設「名取市震災復興伝承館」が開館しました。震災前の閉上の街並みを再現した模型や、復興の歩みを記した年表、震災当時の映像などをみることができ、伝承館が位置する名取川と貞山運河の合流地付近は河川防災ステーションとして整備されており、水防活動や災害時の復旧活動の支援基地となります。

亘理町では、災害対応機能を強化した新庁舎が完成し、令和2年1月6日に開庁しました。鉄筋コンクリート3階建て、延べ床面積およそ1万600㎡の建物で、72時間対応の自家発電室や、屋上にはヘリコプター出動時に使用するホバリングスペースなどを備えています。また、このエリアには新たに防災拠点施設も整備されました。災害時に必要となる物資を一元的に備蓄、管理し、円滑に避難所まで配送する司令塔の役割を果たします。平常時は防災関係の講習会や防災訓練など、防災教育の拠点となります。

山元町では、平成31年1月に新庁舎が完成し、令和元年5月に開庁しました。庁舎及び敷地は隣接する中央公民館等と合わせて災害時の防災拠点となります。

震災遺構については、公開されている仙台市の震災遺構仙台市立荒浜小学校から約500m東に、津波によって浸食された地形や破壊された住宅基礎等、ありのままの姿を保存・整備し、「震災遺構仙台市荒浜地区住宅基礎」として令和元年8月2日から公開しています。震災前の地域の暮らしや津波のメカニズム、被災後の状況を解説したパネルが設置され、散策路を自由に見学できます。

名取市では震災メモリアル公園が整備され、令和元年5月から利用が始まりました。公園は、祈り・思い・日和山・海を望む丘・遺構と伝承の5つのゾーンで構成され、遺構と伝承ゾーンには、震災前の閉上地区を再現したモニュメントが設置されています。

山元町では、津波の甚大な被害を後世に伝え、風化防止・防災意

識向上のため中浜小学校を震災遺構とし、児童や地域住民ら90人の命を守り抜いたこの場所を令和2年9月26日から公開しています。

岩沼市では東日本大震災発生から8年を迎える平成31年3月10日の夕方に千年希望の丘相野釜公園にて東日本大震災追悼行事「希望の灯火(きぼうのあかり)」が初めて開催されました。

震災の記憶を後世に伝える行事として開催され、集団移転を行った方々によって慰霊碑につながる通路沿いに並べられた犠牲者の数と同じ181個の灯籠に点火し、灯りを見ながら犠牲者の供養や故人への思いを馳せました。



写真:山元町役場庁舎(山元町)



写真:住宅基礎・案内板(仙台市)



写真:世界防災フォーラム(仙台市)

## 復旧・復興状況(定点観測)

## 七ヶ浜町吉田花淵港地区



## 山元町坂元地区

